
[成果情報名] 電照栽培用黄色系秋ギク「福花11号」の育成

[要約] 電照栽培用黄色系秋ギクとして、花茎上部のボリュームが優れ、側枝数が非常に少なく摘蕾作業を大幅に削減できる「福花11号」を育成した。

[キーワード] 秋ギク、電照抑制栽培、品種育成

[担当部署] 花き部・花き育種チーム

[連絡先] 092-922-4958

[対象作目] 花き・花木

[専門項目] 育種

[成果分類] 品種育成

[背景・ねらい]

電照栽培用の黄色系秋ギクとして育成した「秋華」（平成16年度成果）は、花色が濃黄色で、側枝数が少なく、電照打切りから収穫までの期間が短いことから特徴ある地域特産品種として普及、定着しつつある。しかし、本種は節間や花首が長く、上位葉が小さいことから、ボリュームが不足し、大規模産地の業務用品種になり得るには不十分である。

そこで、伸長性に優れ、側枝数が少なく、花茎上位葉部のボリュームが優れる黄色系秋ギク品種を育成する。（要望機関名：生産流通課、朝倉・八女・飯塚・田川普及センター、JAふくれん（H15））

[成果の内容・特徴]

1．平成16年に本県で育成した黄色系秋ギク「秋華」を種子親とし、本場保有の黄色系秋ギク12系統を花粉親として育成した。18年及び19年にそれぞれ電照抑制12月出し栽培を行い、形質が安定していることを確認し、生産性及び商品性が高い系統を選抜した。

2．「福花11号」は、電照抑制12月出し栽培で収穫日が従来品種の「精興の秋」よりも4～6日早い。側枝数が6.5～7.6で、「精興の秋」の36.2～42.3と比較して非常に少なく、摘蕾作業を大幅に削減できる。花茎の上位部のボリュームが優れ、花弁数（舌状花数）が多い（表1、図1）。

[成果の活用面・留意点]

1．本県の特産品種として品種登録を申請し、産地への普及を図る。

2．業務用の黄色品種として有利販売を行うことにより産地の活性化が図られる。

[具体的データ]

表 1 電照抑制12月出し栽培における「福花11号」の特性 (平成19年)

品種・系統	平均 収穫日 (月/日)	平均 開花日 (月/日)	切り花長 (cm)	葉数	側枝数	重量 (g)	90cm 重量 (g)	小花数	
								舌状花	筒状花
福花11号	12/10	12/17	111.7	47.8	6.5	100.7	90.8	213.8	58.0
精興の秋 (対照)	12/16	12/25	105.7	47.7	42.3	87.6	77.5	176.7	117.3

注)挿し穂及び発根苗をそれぞれ2.5 で3週間処理後、9月12日定植、10月23日電照打ち切り



図 1 「福花11号」



図 2 「精興の秋」

[その他]

研究課題名：秋ギクおよび夏秋ギクの新品種の育成
 予算区分：経常
 研究期間：平成19年度（平成15～22年）
 研究担当者：谷川孝弘、山田明日香、巢山拓郎